
王子公園再整備基本計画(素案)

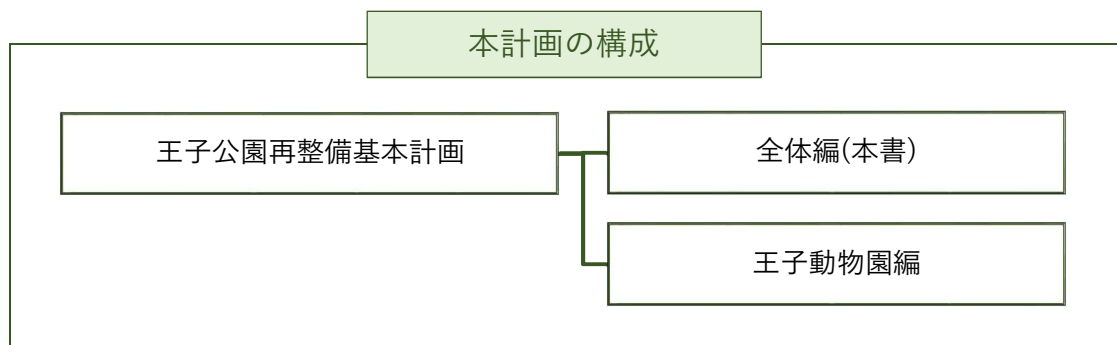
【全体編】

令和5年9月

神戸市

目次

1	再整備の位置づけ	1
2	計画概成期間（予定）	1
3	5つの基本目標	2
3.1	新たな「原田の森」の創造	2
3.2	学術・文化拠点のシンボルの創出	4
3.3	王子動物園の魅力向上	5
3.4	公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上	9
3.4.1	緑の広場・シンボルプロムナード	9
3.4.2	スポーツゾーン	12
3.4.3	駐車場	16
3.5	広域防災拠点の機能強化	18
4	整備スケジュールと概算事業費	19
4.1	整備スケジュール（予定）	19
4.2	概算事業費（予定）	19
5	関連資料	20
5.1	既存の樹木	20
5.2	大学ゾーンの土地利用の条件	21
5.3	旧ハンター住宅	21

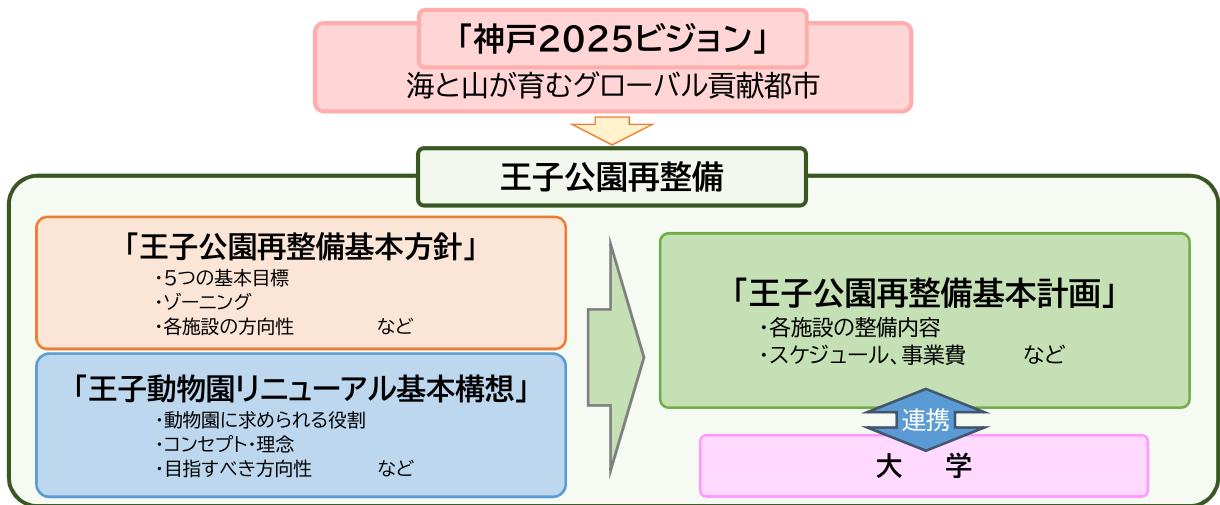


1 再整備の位置づけ

『神戸2025ビジョン（2021年4月）』において、市民一人ひとりが安心安全で心豊かに幸せを実感できる生活を享受でき、将来を担う若者が輝き、活躍できる持続可能な社会を築く「海と山が育むグローバル貢献都市」をめざしています。

王子公園再整備にあたっては、利便性が高い文教エリアのポテンシャルを活かしながら、若年定住・交流人口の増加や都市ブランドの向上を図り、持続可能な神戸の発展を実現していくため、2022年（令和4年）12月に「王子公園再整備基本方針」「王子動物園リニューアル基本構想」を策定し、5つの基本目標とゾーニング、王子動物園のコンセプト・理念や目指すべき方向性等を定めました。

本基本計画は、基本方針および基本構想に基づき、各ゾーンにおける施設の具体的な整備内容や事業全体のスケジュール等を定めたものです。



【再整備の位置づけ】



【ゾーニング】

2 計画概成期間（予定）

2024年度（令和6年度）～ 2030年度（令和12年度）

3 5つの基本目標

3.1 新たな「原田の森」の創造

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 新たな「原田の森」の創造を目指し、王子公園全体の魅力を向上させながら、良好な景観の維持、向上を図ります。
- ・ 公園周辺からも公園や緑の存在を強く認識できるように、地形を活かした開放的な景観形成を図ります。
- ・ 市民に親しまれてきた桜や生育良好な既存樹を活かしながら、異常高温対策としても有効な緑陰の創出を行い、存在感のある緑のボリュームや景観を未来につなげます。

(2) 計画概要

- ・ 良好な見通しとなるよう開放的な緑地を整備し、快適で安全安心な緑空間を形成
- ・ シンボルプロムナードに新たな桜を植樹し、桜の通り抜けルートを拡大
- ・ 快適な緑陰のある園路・園地と休憩施設を整備
- ・ 壁面・屋上等における緑化の導入や建築意匠により園内建築物の圧迫感を軽減
- ・ 公園と大学が一体となる空間づくり



【各ゾーンの主な計画概要図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 大学も含めた公園全体で、既存植栽の保存・保全方法や新たな植栽の実施等について、具体策を検討します。
- ・ Living Nature Kobe(*1)やヒーリングガーデン(*2)に代表されるような、本市で取り組む高質な植栽の設えを検討し、王子公園や動物園への来園者や他都市から来訪する来街者への顔となる空間を創出します。



【川沿い園地 整備イメージ】

- *1 Living Nature Kobe・・・自然の景の創出による神戸市の新たな緑と花のブランディングの取り組み。社会における持続可能性に対する意識の高まりを踏まえて、緑や花を取り入れた空間の整備に対して、自然環境の視点から新たな役割が求められている。
- *2 ヒーリングガーデン・・・訪れた方々が自然を感じられ、心の癒しとなる高質なみどりあふれる空間。

3.2 学術・文化拠点のシンボルの創出

(1) 理念・コンセプト等

- ・「教育」「研究」「社会貢献」という3つの使命を果たしつつ、王子公園周辺エリアの持つ歴史と文化を尊重するとともに、国内外の人材が集う王子公園周辺エリアの新たな中核施設として、地域と共に成長し、地域活力の醸成や定住人口・関係人口の創出など持続可能な地域社会の形成に貢献する、地域そして世界に開かれた大学を誘致します。
- ・大学には、神戸の将来を牽引する優秀な人材の確保・育成・輩出、産学連携による地元企業の成長・活性化、教育・研究成果の社会への還元といった「市域全体への貢献」、学生と地域や商店街等とが連携した賑わいづくりなど学生による社会貢献、リスキリングやリカレント教育など学び直しの機会の提供といった「近隣地域への貢献」の両立を求めます。

(2) 計画概要

大学設置・運営事業者による事業実施計画の概要は、下記のとおりです。

1. 大学運営（教育・研究等）
 - (1)全体コンセプト
自分で、みんなで。未来を起動するオープンイノベーションパーク
ー地域・社会・世界が大学に入ってくる学びー
 - (2)王子キャンパスで育成する人材像
世界や社会との連携、交流を通じて、国際性や多様性への理解を身につけ、アントレプレナーシップ（起業家精神）を発揮してより良い社会の実現に貢献できるイノベーション人材
 - (3)アカデミックコンセプト
目まぐるしく変転する予測困難（VUCA）な時代を切り拓くイノベーション能力を涵養
 - (4)キャンパスコンセプト
地域・社会・世界の様々な人、情報が行き交うプラットフォームキャンパス
2. 地域・社会への貢献
 - (1)地域経済
 - ・国際性豊かな教職員・学生が神戸を舞台に産官学民連携の取組を展開
 - ・アントレプレナー育成により、王子を創業・成長の基地へ押し上げる
 - (2)地域貢献
 - ・あらゆる世代や属性の人々が日々気軽に訪問できる場として、キャンパス施設を開放
 - ・社会のあらゆる人々が学びの楽しさに目覚めるリカレントラーニングパークの形成
 - ・商店街、王子動物園のイベント等への学生の協力・参加や、研究成果の市民への発信など大学のイベントへの地域住民の参加といった、学生と地域の人々が交流する機会を創出
3. 都市計画・景観等
 - (1)空間
 - ・緑豊かな六甲の山並みと調和したランドスケープを計画
 - ・ボリュームを抑え、六甲の山並みに配慮した分棟による配棟計画
 - ・石積擁壁をなくし、周辺の緑地空間とシームレスに繋がる開放的なキャンパスを整備
 - ・周辺に広がる緑を建物に積層させるとともに、アースカラーを基調とする色彩デザインにより、周辺の自然環境との調和を図る
 - (2)機能
 - ・中庭を含む外部空間を開放し、どこからでも入れる公園のようなキャンパスを整備
 - ・社会とシームレスにつながるキャンパスを目指し、あらゆる世代や属性の人々が日常的にキャンパスに立ち寄り、施設などを利用し、学生と交流できる場と機会を提供
 - ・神戸市と連携し、屋外・屋内避難場所を設置するなど、広域防災拠点の機能の向上に寄与

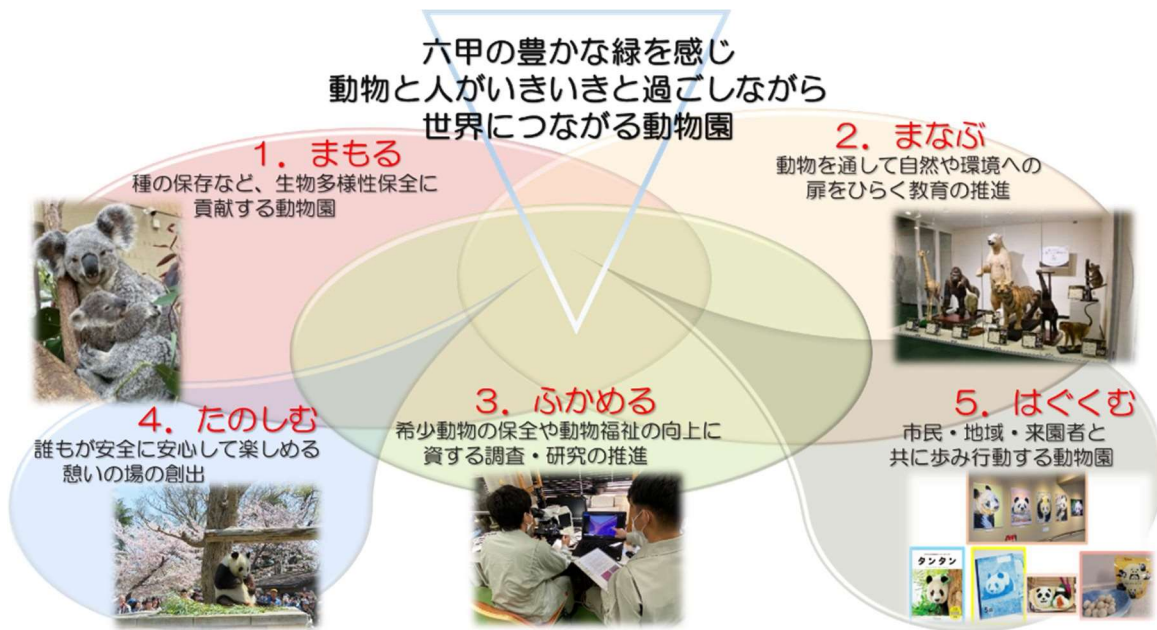
(3) 今後の検討に向けて

求める大学像の実現に向け、大学との協議を引き続き進めます。

3.3 王子動物園の魅力向上

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 市街地にありながら六甲山系に近い立地特性や景観を最大限に生かしつつ、動物福祉の向上を図ることはもちろん、動物の飼育に注力すると共にその取り組みの成果を生息地の野生動物の保護や生息環境の保全につなげます。
- ・ 自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を来園者が1日中、ゆっくりと観察し、遊び、憩い、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物園を目指します。



【理念と5つの目指すべき方向性の概念図】

(2) 計画概要

1) 動物収集計画（コレクションプラン）

生物多様性保全に貢献し、将来にわたり持続可能な飼育展示を実現するため、以下の方針のもと、コレクションプランを策定しました。

○動物収集の方針

- ・（公社）日本動物園水族館協会（以下、JAZA）の策定計画（JCP）に準拠
- ・ 域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果等を考慮
- ・ 今後、導入が困難と見込まれる動物は原則、繁殖を行わない
- ・ 近隣施設との棲み分けも考慮

○繁殖方針

- ・ 最優先種：種の保存の貢献のため、積極的に繁殖を推進（JCP に準拠または独自の取り組み）
- ・ 優先種：繁殖を推進（JCP に準拠した計画的な繁殖）
- ・ 維持種：展示施設内で適正数を維持するための繁殖
- ・ 調整種：繁殖を行わない。もしくは譲渡を促進

○新規導入

- ・ 域外保全に貢献できる海外希少動物種、国内希少動物種（市内・県内）を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進



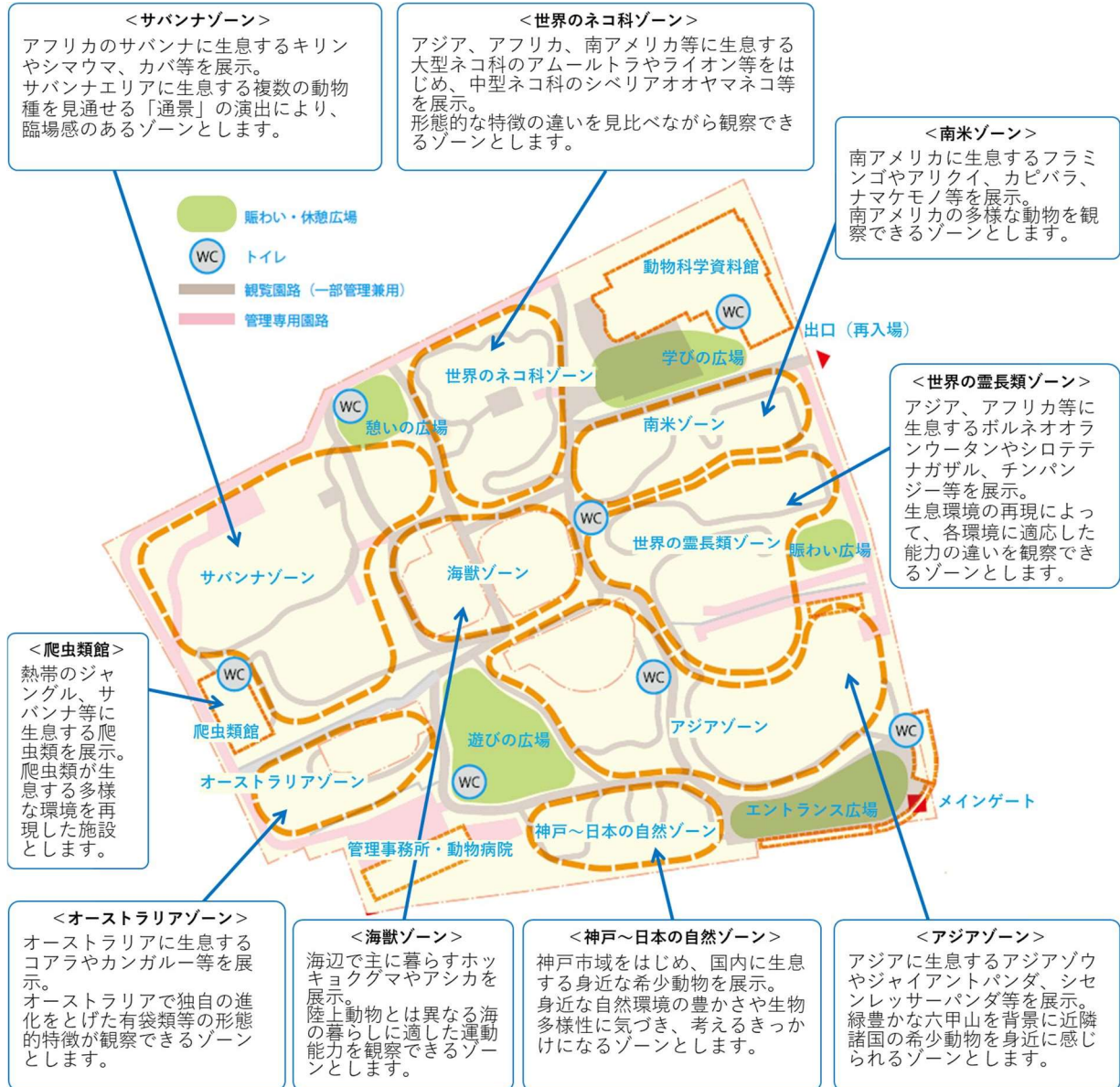
【王子動物園動物収集計画（コレクションプラン）（基本計画策定時）】

繁殖方針による分類	該当種数 (うち新規導入)	主な該当種 (新規導入種)
最優先種	8種(2種)	ジャイアントパンダ、コアラ、アジアゾウ、ボルネオオランウータン、アムールトラ、アムールヒョウ、(神戸市内の希少野生動物種、兵庫県内の希少野生動物種)
優先種	15種	キリン、カバ、ユキヒョウ、ジャガー、オオアリクイ、シセンレッサーパンダ、チンパンジー、シロテテナガザル、ニホンリス、スローロリス、マヌルネコ、フタユビナマケモノ、ニシアフリカコガタワニ、ヨウスコウワニ、ヒワコンゴウインコ
維持種	50～60種	ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソ等
調整種	50～60種	ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ等
計	130種程度	

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

2) わかりやすいゾーニング

動物が生息する地域と気候風土との関連を理解しやすいよう地域ごとに動物を集約したゾーンや、動物種の分類に着目したゾーンを設定します。また、世界各地を巡りながら各地域に生息する動物を観覧しているように感じられる仕掛けなどストーリー性のある観覧ルートにします。



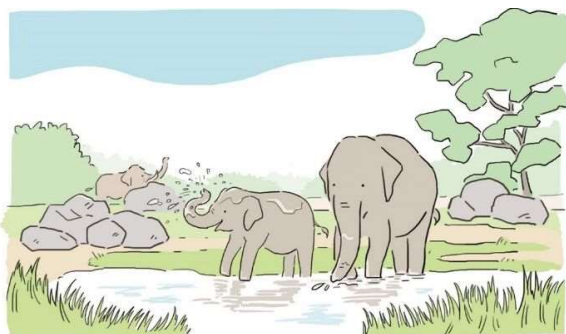
※ゾーニングは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

3) 新たな展示方法の導入

動物福祉の視点に立った飼育環境の向上を図るとともに、自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を、来園者が、一日中ゆっくりと観察し、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物展示を目指します。

1 動物本来のいきいきとした姿を引き出すための展示手法の導入

動物の生息環境を再現し本来の生態や暮らしの様子を観察できる展示や、装置の工夫等により動物本来の能力や行動を引き出す展示等、動物種毎の特性等に応じて、飼育環境の向上を図り、いきいきとした姿を引き出す展示方法を積極的に導入します。



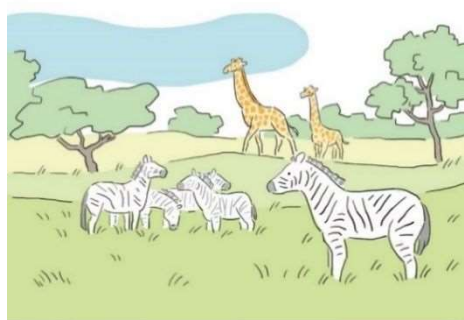
【動物の生息環境を再現する展示のイメージ】



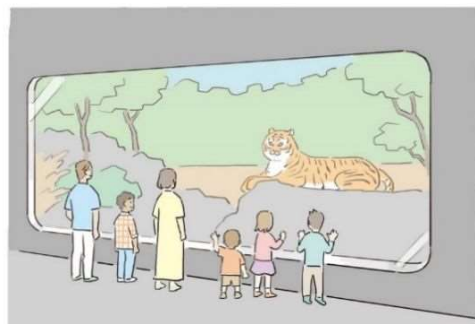
【動物本来の能力や行動を引き出す展示のイメージ】

2 動物たちとの出会いをより印象付けるような演出や工夫

複数の動物種を見通せるような「通景」の演出、自然界の生息環境を踏まえた複数の動物種による混合展示の導入、運動場で活発に活動する動物を広く見渡せる観察場所や動物を間近に観察できる場所の整備等、動物との出会いを様々に楽しめる演出や工夫を行います。



【複数の動物種を見通せるような「通景」のイメージ】



【動物を間近に観察できる場所のイメージ】

(3) 今後の検討に向けて

リニューアルにあたっては、開園しながら工事を進める予定であるため、工事に伴う騒音や照明、動物移動が飼育動物に極力影響が及ばない整備手順を検討するとともに、獣舎整備に伴う飼育動物の回避スペース（仮設獣舎）についても、動物福祉の観点も踏まえながら、空き獣舎や空きスペースの有効活用等で確保していきます。

なお、本計画は、飼育動物の状況や社会情勢の変化等に対応し、必要に応じて計画を見直ししながら進めていきます。

3.4 公園とスポーツ施設のリノベーションと魅力向上

3.4.1 緑の広場・シンボルプロムナード

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 緑豊かで桜の名所として親しまれている自然環境や景観の保全、市民の憩いやスポーツ・子どもたちの学びや成長の場としての利用など、誰もが気軽に憩いくつろげる空間を目指します。

(2) 計画概要

1) 緑の広場

- ・ 芝生広場を中心とした王子公園駅前から公園・動物園を認識できる景観の創出
- ・ 開放的なバリアフリー動線の確保
- ・ 駅、大学、動物園につながる公園と一体的で高質な空間とにぎわいの創出
- ・ 景観木となる既存の大径木の保存活用と新植、既存モニュメント等の残置
- ・ 異常高温対策として有効な休憩スペースや緑陰の創出
- ・ 親水空間や遊具等の設置
- ・ ラジオ体操等の地域活動ができる広場やイベントに使用できる舗装スペースの確保
- ・ 災害時等における緊急車両等の進入路の確保

2) シンボルプロムナード

- ・ 魅力的な緑地軸・景観軸となる歩行者専用園路の整備
- ・ 既存樹木の活用や新たな桜の植樹などによる周辺の建造物の圧迫感の軽減
- ・ 桜の通り抜けルート拡大による魅力的なプロムナードの形成
- ・ 快適に歩けるように平坦部や休憩スペースを設置
- ・ 植栽の隙間から動物が見える・鳴き声が聞こえる仕掛けなど動物園を身近に感じられる演出
- ・ 地域活動やイベントに使用できる舗装スペースの確保



【緑の広場 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 大学ゾーンとの境界となる部分は、一体的な空間となるよう施設や植栽の計画について、大学との協議を引き続き進めます。
- ・ 飲食・物販の機能を想定したにぎわい施設の配置、業態等を検討します。さらに、大学内に設置予定のにぎわい機能と相互に補完するよう、大学との協議を引き続き進めます。
- ・ 様々なイベントや市民参画の仕組みづくりなど、ソフト面でのにぎわいづくりを検討します。
- ・ 異常高温対策に資する遮熱性を高めた舗装材（現地発生土・木を活かした自然土系舗装やウッドチップ舗装等）、クールスポットとしてミスト等の導入を検討します。
- ・ 園内のジョギングコースや散策コースの設定について検討します。
- ・ 新たなモビリティの導入など、園内の移動手段を検討します。



【緑の広場 整備イメージ】



【シンボルプロムナード 整備イメージ】

3.4.2 スポーツゾーン

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 「誰もが気軽に利用できる多世代スポーツ活動ゾーン」として、引き続き幅広い競技、地域のイベント等の様々な用途で利用できるスタジアムを整備します。
- ・ スタジアム周辺には、子どもから高齢者まで気軽に遊び、誰でも運動できる広場を創出し、利用用途に応じた安全・安心な施設づくりに取り組むとともに、休憩、イベントにも利用できる多目的な空間を整備します。

(2) 計画概要

1) スタジアム

- ・ フィールドは、アメリカンフットボール、サッカーやグラウンドゴルフ、ラクロス等の競技が可能なスペースとして、現在と同規模の約 6,500 m²を確保
- ・ 400mトラック（4レーン）、砂場を配置し、陸上競技の練習に対応
- ・ 観客席は、現在のスタジアムと同規模の 3,000 席程度（一部車椅子用を含む）を設置
- ・ 観客席の屋根・壁・吸音材による防音対策の実施
- ・ 市民の日常的な活動にも利用できる一般開放の時間帯を設定

2) 広場

- ・ スタジアム東側は「多目的広場」とし、休憩スペースやラジオ体操等での利用をはじめ、スタジアムのエントランス空間や大会時のバックヤードエリアとして、シーンに併せた利用が可能な施設を整備
- ・ スタジアム西側は、ちびっこ広場とわんぱく広場に挟まれる形で設置されている弓道場を西側へ再配置し、王子スポーツセンター北側駐車場の進入路を西側へ変更することで、現状の「ちびっこ広場」と「わんぱく広場」をあわせた広さを確保した「みんなの広場」を整備し、幅広い年齢層が利用できる施設を整備

3) テニスコート

- ・ 王子公園内の立体駐車場の屋上にハードコート 2 面を整備。屋上コートの周囲には、屋根付きのベンチを併設し、適宜休憩できるプレー環境を整備
- ・ ポートアイランドに新たに 6 面を新設

4) 登山研修所

- ・ 他のスポーツ施設との一体的利用が見込めるスポーツゾーン内へ再配置し、市民がより身近に親しむことができる施設を整備
- ・ スポークライミングウォールや人工岩場を併設するなど、既存の登山研修所の機能を確保するとともにユニバーサルデザインにも配慮した建物を整備

5) 弓道場（近的）

- ・ スタジアム西側の「みんなの広場」を一体的なスペースとして確保するため、スポーツゾーン西側へ再配置



【スポーツゾーン 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

1) スタジアム

- ・音響設備は、周辺環境に配慮し、指向性に優れたスピーカーの導入や機器の配置場所を工夫するなどを検討します。
- ・照明設備は、周辺環境への光漏れに配慮し、フィールド内だけを集中して照らせる指向性に優れた機器の導入や配置場所を工夫するなど、検討します。
- ・スタジアムは、六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するように配慮した建築デザインや緑化等を検討します。



【スタジアム 整備イメージ】

2) 広場

- ・「多目的広場」のデザインについては「緑の広場」や「シンボルプロムナード」と連続性を持ったものとなるよう検討します。
- ・「みんなの広場」の整備にあたっては、遊具、ボール遊びなど、幅広い年齢層が利用できる施設を検討します。
- ・近隣や広域からも訪れたいくなるような空間となるよう検討します。



【みんなの広場 整備イメージ】



写真提供：株式会社コトブキ



出典：西宮鳴尾浜

<https://www.kobe-np.co.jp/news/odekake-plus/news/detail.shtml?news/odekake-plus/news/experience/201708/10514217>



写真提供：株式会社コトブキ



出典：富山市総合体育館

<https://www.hasetai.com/example/detail/1681/>

【みんなの広場利用等のイメージ】

3.4.3 駐車場

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 駐車場機能を集約して立体化し、緑の広場やシンボルプロムナードなど、人のための空間を創出します。
- ・ 六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう、壁面緑化や周辺の植樹、建物の高さやデザイン等に配慮します。
- ・ 駅に近いという立地特性、平日の利用状況等を踏まえ、現在よりも駐車台数を抑えた規模で整備します。
- ・ 大型バスでの来園にも対応した駐車場整備とします。
- ・ 公共交通機関の利用促進施策の充実、駐車場料金見直し等による交通手段の転換、駐車場混雑状況の情報提供などによる利用時間帯の分散を図ります。
- ・ 駐車場の屋上の一部をテニスコートとして活用します。

(2) 計画概要

1) 立体駐車場

- ・ 整備台数：500 台程度（平日は大型バス駐車枠を 20 台程度確保）
- ・ 建物概要：北棟 4 階+屋上（駐車場利用）、南棟 3 階+屋上（テニスコート 2 面）
- ・ 建物機能：エレベーター、トイレ、電気自動車充電設備、最新の入出庫管理システム 等

2) 園内・周辺道路

- ・ 駐車場アクセス園路（歩行者の安全を確保）
- ・ 市道阪急沿線の再整備（円滑な入庫動線の確保、市営駐輪場の再編）



【駐車場・アクセス園路 計画図】

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 六甲山の山並みを背景とした公園全体の景観と調和するよう様々な視点場からの景観に配慮した建築デザインや緑化を検討します。
- ・ 駐車場運営システム（料金体系、情報案内、周辺道路への影響を抑えるためのマネジメント方法など）を検討します。
- ・ 公共交通機関の利用促進を図るための施策を検討します。



【駐車場 整備イメージ】

3.5 広域防災拠点の機能強化

(1) 理念・コンセプト等

- ・ 阪神・淡路大震災の経験を活かした防災機能を確保・強化します。
- ・ 公園全体で広域防災拠点としての機能を強化します。

(2) 計画概要

- ・ ヘリコプター離着陸場の確保
- ・ 緊急避難場所や救援活動拠点の確保
- ・ 雑用水の確保（親水空間・雨水貯留槽等）
- ・ 非常用電源や太陽光発電、かまどベンチなど防災施設の整備
- ・ その他給水拠点や防災行政無線、物資集積配送拠点、地域備蓄拠点など既存機能の維持

(3) 今後の検討に向けて

- ・ 救援活動拠点については、公園全域で機能を確保できるよう引き続き検討します。
- ・ 大学とも連携しながら、地震災害だけでなく豪雨災害などに対応できるよう防災機能の強化について引き続き検討します。
- ・ 地域や大学と連携して防災施設の活用などに取り組みます。



【防災機能 配置イメージ】

4 整備スケジュールと概算事業費

4.1 整備スケジュール（予定）

年度別整備スケジュール（予定）は、概ね次のとおりです。

施設	年度	2024 (令和6年)	2025 (令和7年)	2026 (令和8年)	2027 (令和9年)	2028 (令和10年)	2029 (令和11年)	2030 (令和12年)	2031 (令和13年)	
動物園	第1フェーズ (順次供用開始)	→								第2フェーズ以降 (順次供用開始)
			サバレンゾーン・爬虫類館		エントランス 管理事務所・動物病院		アジアゾーン(一部)			
スポーツ施設 公園施設	設計・施工 (順次供用開始)	→								計画概成
		既存施設解体(プール等)・施設整備(弓道場等)			立体駐車場		緑の広場・シンボルプロムナード等	スタジアム		
大学		計画協議・土地譲渡・設計・施工						開学		

※個別の施設整備のスケジュールについては、今後、詳細設計や工事請負契約後の施工計画、大学との協議等により変更が生じる場合があります。

4.2 概算事業費（予定）

計画概成期間にかかる事業費（予定）は、概ね次のとおりです。

施設	整備内容	事業費（円）
動物園	第1フェーズ (全体)	約70億 (約140億)
スポーツ施設	スタジアム、登山研修所、弓道場など	約90億
公園施設	緑の広場、シンボルプロムナード、園地・ 園路、多目的広場、駐車場など	約100億
総額		約260億 (約330億)

※今後、関係機関との協議や物価水準の変動等により変更が生じる場合があります。

5 関連資料

5.1 既存の樹木

園内には多数の既存樹が存在し、大きく育っている木も多く、常落葉の大径木は、園内の自然な日除けとなり、動物園内では、憩いの場に影をつくり来園者に涼を運んでいます。また、青谷川沿いでは濃い緑を形成し水音と合わさり溪谷のような雰囲気を作り出しています。

桜は、動物園内とテニスコート周囲に多く、それゆえ、本園は桜の名所ともなっており、春には動物園内を主たるルートにした桜の通り抜けが開催され、多くの利用者に親しまれています。

ただし、大径木や特に通り抜けルート上の動物園内の桜の中には、老木で樹勢、傷、腐朽等の異常があり生育回復が望みにくい、活力度の低い樹木も多数あります。



【動物園内の既存大径木の木陰】



【桜の通り抜けルート】



【現況樹木位置図：既存樹全体】

5.2 大学ゾーンの土地利用の条件

誘致する大学が、将来にわたってその役割を担い続けること、地域に開かれた大学と呼ぶにふさわしい施設とすることを目的として、大学ゾーンには次の利用条件を設けます。

①建築物の用途等の制限

大学等の建築物及びそれに附属する建築物のみ建築可能とする。但し、著しい騒音や振動を伴う施設など、周辺環境を著しく悪化させる恐れがある施設を除く。

②建築物の壁面位置の制限

阪急王子公園駅前の開放感を確保する観点から、建築物の外壁又はこれに変わる柱の面から道路境界線までの距離は5 m以上とする。

③かき又はさくの構造の制限

公園との一体性の確保や阪急王子公園駅前の開放感を確保する観点から、緑の広場・遊歩道との敷地境界線と道路境界線に面する部分には、原則として門、塀、垣及びさくを設置してはならない。

5.3 旧ハンター住宅

重要文化財「旧ハンター住宅」については、解体・再建による耐震工事に際して、北野地区への移築の検討を進めます。

王子公園再整備基本計画(素案)

【王子動物園編】

令和5年9月

神戸市

目次

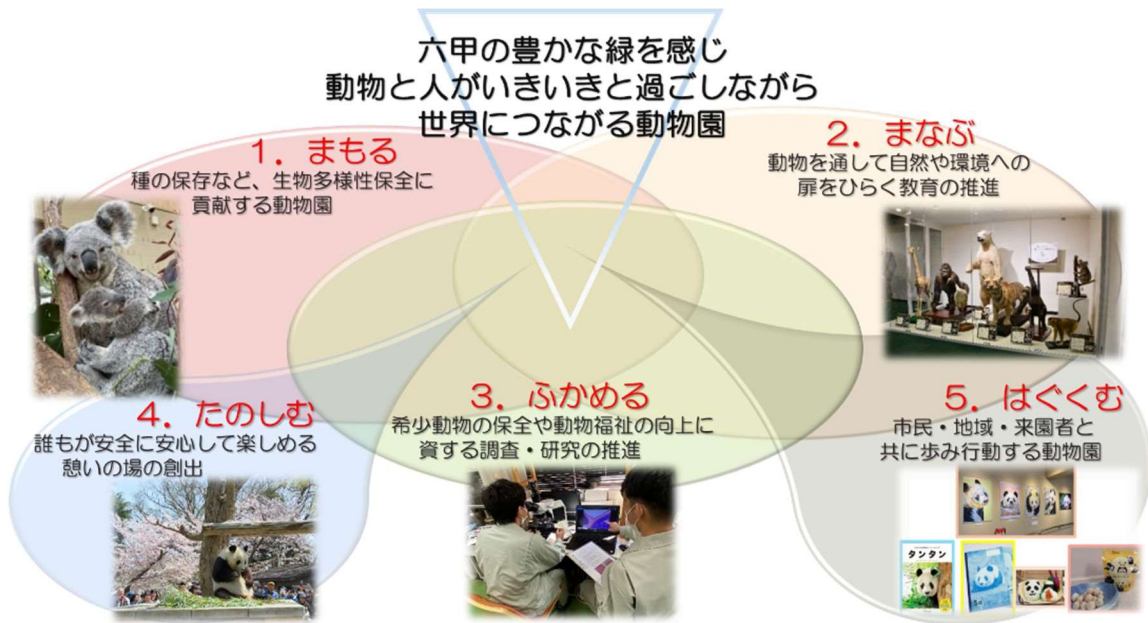
1	はじめに	1
	(1) 王子動物園の理念・コンセプトと目指すべき方向性	1
	(2) 基本計画策定までの経緯	1
2	計画のポイント	2
	(1) 動物収集計画（コレクションプラン）	2
	(2) わかりやすいゾーニング	3
	(3) 新たな展示方法の導入	4
3	施設の整備方針	5
	(1) 飼育展示関連施設	5
	(2) 来園者の利便性を高める施設整備	7
4	王子動物園が目指すべき方向性と具体的な取り組みの方針	10
	(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園	10
	(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進	12
	(3) 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進	13
	(4) 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出	14
	(5) 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園	15
5	工程計画	16
6	実現に向けて	19

1 はじめに

(1) 王子動物園の理念・コンセプトと目指すべき方向性

市街地にありながら六甲山系に近い立地特性や景観を最大限に活かしつつ、動物福祉の向上を図ることはもちろん、動物の飼育に注力すると共にその取り組みの成果を生息地の野生動物の保護や生息環境の保全につなげます。

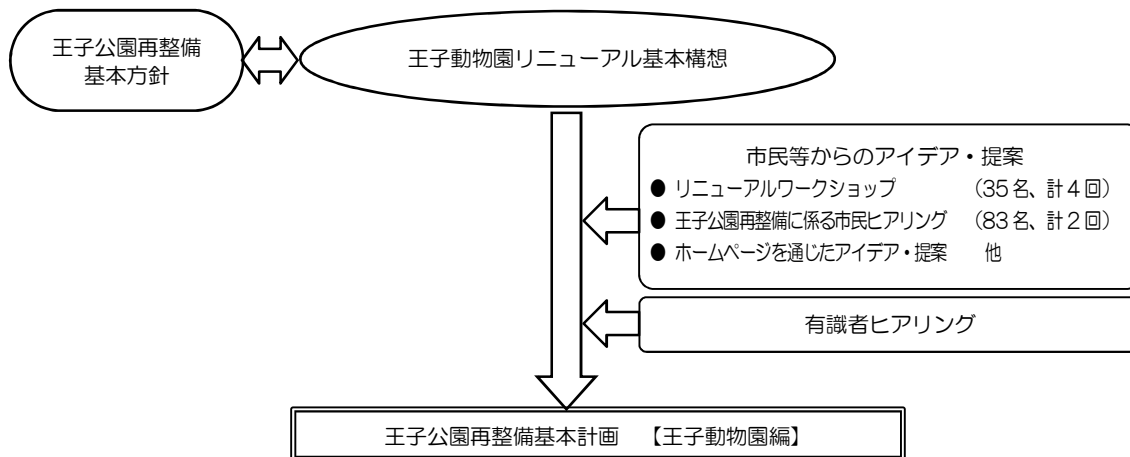
自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を来園者が一日中、ゆっくりと観察し、遊び、憩い、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物園を目指します。



【理念と5つの目指すべき方向性の概念図】

(2) 基本計画策定までの経緯

基本構想の実現に向けた具体的な取り組みについて、有識者や市民、王子動物園サポーター等様々な主体の参画を得て検討し、策定しました。



2 計画のポイント

(1) 動物収集計画（コレクションプラン）

生物多様性保全に貢献し、将来にわたり持続可能な飼育展示を実現するため、以下の方針のもと、コレクションプランを策定しました。

○動物収集の方針

- ・（公社）日本動物園水族館協会（以下、JAZA）の策定計画（JCP）に準拠
- ・域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果等を考慮
- ・今後、導入が困難と見込まれる動物は原則、繁殖を行わない
- ・近隣施設との棲み分けも考慮

○繁殖方針

- ・最優先種：種の保存の貢献のため、積極的に繁殖を推進（JCPに準拠または独自の取り組み）
- ・優先種：繁殖を推進（JCPに準拠した計画的な繁殖）
- ・維持種：展示施設内で適正数を維持するための繁殖
- ・調整種：繁殖を行わない。もしくは譲渡を促進

○新規導入

- ・域外保全に貢献できる海外希少動物、国内希少動物（市内・県内）を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進



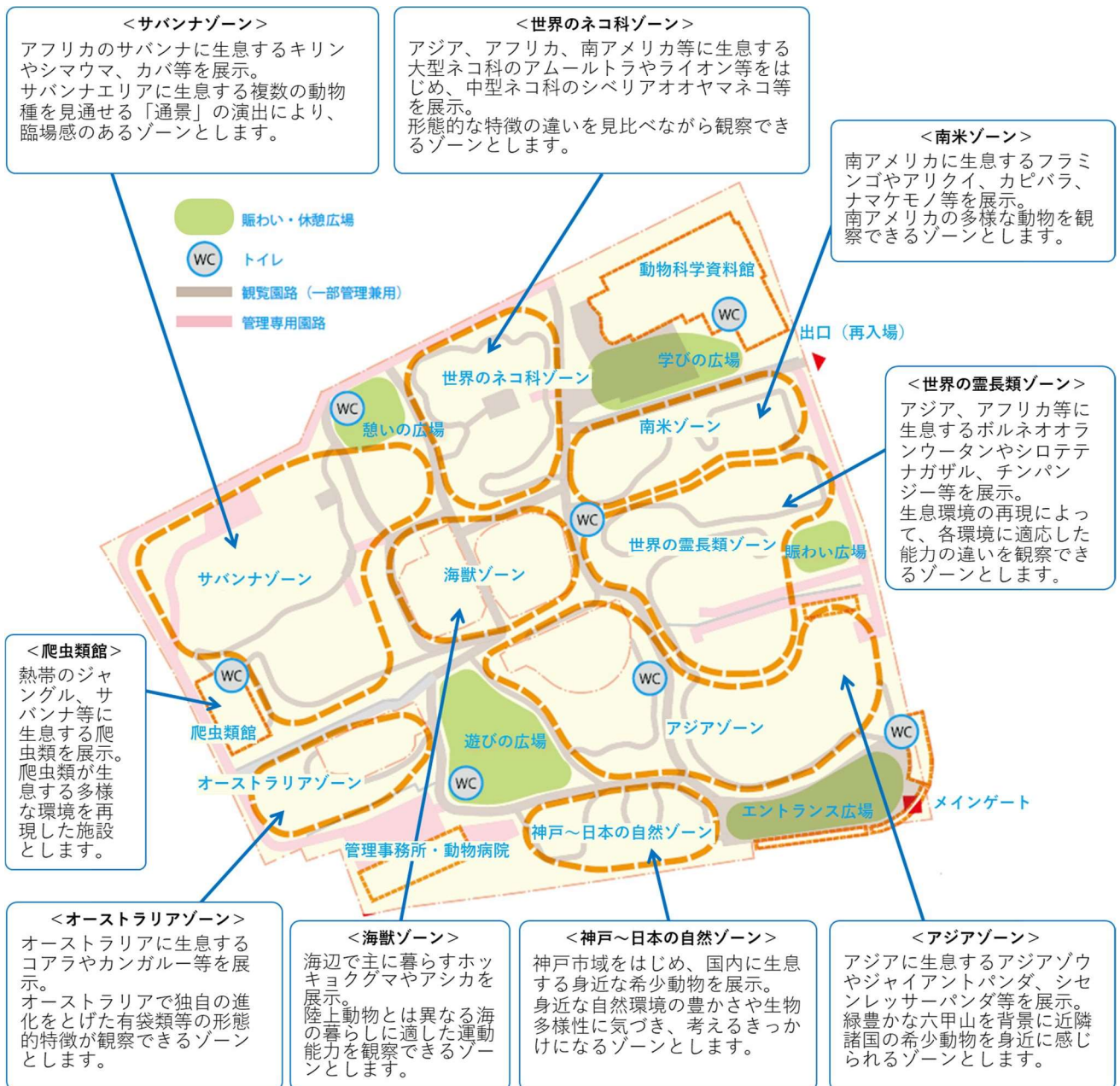
【王子動物園動物収集計画（コレクションプラン）（基本計画策定時）】

繁殖方針 による分類	該当種数 (うち新規導入)	主な該当種 (新規導入種)
最優先種	8種(2種)	ジャイアントパンダ、コアラ、アジアゾウ、ボルネオオランウータン、アムールトラ、アムールヒョウ、(神戸市内の希少野生動物種、兵庫県内の希少野生動物種)
優先種	15種	キリン、カバ、ユキヒョウ、ジャガー、オオアライクイ、シセンレッサーパンダ、チンパンジー、シロテテナガザル、ニホンリス、スローロリス、マヌルネコ、フタユビナマケモノ、ニシアフリカコガタワニ、ヨウスコウワニ、ヒワコンゴウインコ
維持種	50～60種	ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソ等
調整種	50～60種	ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ等
計	130種程度	

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

(2) わかりやすいゾーニング

動物が生息する地域と気候風土との関連を理解しやすいよう地域ごとに動物を集約したゾーンや、動物種の分類に着目したゾーンを設定します。また、世界各地を巡りながら各地域に生息する動物を観覧しているように感じられる仕掛け等、ストーリー性のある観覧ルートにします。



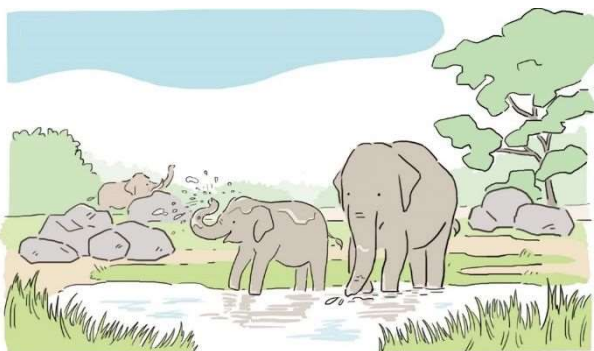
※ゾーニングは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

(3) 新たな展示方法の導入

動物福祉の視点に立った飼育環境の向上を図るとともに、自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を、来園者が、一日中ゆっくりと観察し、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物展示を目指します。

① 動物本来のいきいきとした姿を引き出すための展示方法の導入

動物の生息環境を再現し本来の生態や暮らしの様子を観察できる展示や、装置の工夫等により動物本来の能力や行動を引き出す展示等、動物種毎の特性等に応じて、飼育環境の向上を図り、いきいきとした姿を引き出す展示方法を積極的に導入します。



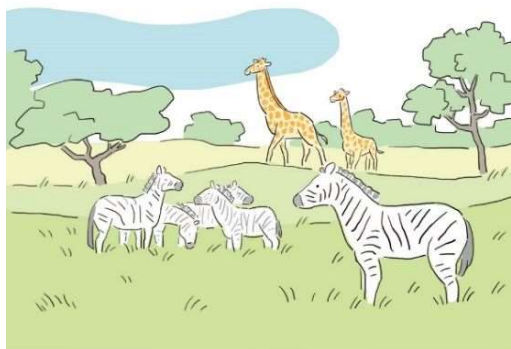
【動物の生息環境を再現する展示のイメージ】



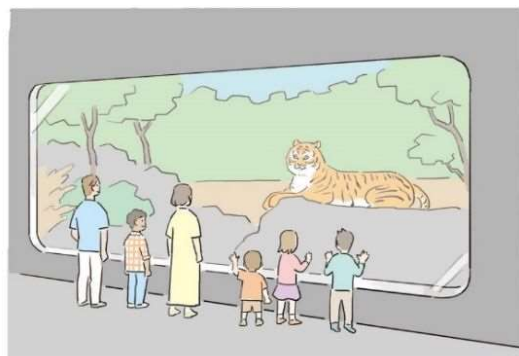
【動物本来の能力や行動を引き出す展示のイメージ】

② 動物たちとの出会いをより印象付ける演出や工夫

複数の動物種を見通せるような「通景」の演出、自然界の生息環境を踏まえた複数の動物種による混合展示の導入、運動場で活発に活動する動物を広く見渡せる観察場所や動物を間近に観察できる場所の整備等、動物との出会いを様々な楽しめる演出や工夫を行います。



【複数の動物種を見通せるような「通景」のイメージ】



【動物を間近に観察できる場所のイメージ】

3 施設の整備方針

(1) 飼育展示関連施設

1) 種の保存や動物福祉の視点に立った施設整備

まもる

種の保存や動物福祉の観点から、動物ファーストの視点に立ち、動物がいきいきとその動物らしく暮らせ、肉体的・精神的により健康で心地よく過ごすことができるよう、飼育環境を整え、飼育方法を工夫し、獣医療の充実等を行っていきます。

① 動物ファーストの獣舎整備

JAZAの「適正施設ガイドライン」をはじめとする国内外のガイドラインに基づく飼育基準等（飼育面積等）を参考とした獣舎や運動場を整備します。特に、アジアゾウやキリンをはじめ、種の保存に取り組む動物種については、ガイドラインに基づく飼育基準を満たしつつ、ゆとりのある寝室面積を確保し、円滑に繁殖を進めることができるスペース等を獣舎に整備します。また、温度管理が重要な動物種については、屋内展示場の整備も検討していきます。

【適正施設ガイドライン（JAZA）に基づく飼育基準の例】

動物種	飼育面積		その他
	屋外	屋内	
アジアゾウ	1頭：500 m ² 以上	雄1頭又は母子：56 m ² 以上、雌1頭：37 m ² 以上	プール：100 m ² 以上等
キリン	1200 m ² 以上	1頭：25 m ² 以上	天井高：6.5m 以上等

② 動物ファーストに向けた飼育環境の改善や飼育方法

動物達の暮らしを豊かで充実したものにする環境エンリッチメントに資する整備や、安全でストレスを与えない健康管理を円滑に行うためのハズバンドアリーナトレーニングに取り組みやすい獣舎設備の充実、繁殖兆候や出産状況の把握・動物行動等の分析を行うための監視カメラ、飼育管理に必要な体重計等の設備の充実を図ります。

また、一日でもっとも過ごす時間が長い寝室で、快適に暮らせる環境の充実や、高齢動物の介護等、個別管理が必要な個体にも対応できる獣舎環境の向上を図ります。獣舎や運動場等の内外には、動物の生息環境に生育する植物に類似した樹種等を選定し、生息環境を再現した空間づくりを進めます。

③ 動物の健康を守る管理機能の充実

動物の健康管理の強化等を図るため、動物病院の他、人工哺育室や一時入院舎、検疫に必要な施設や飼料倉庫（冷蔵・冷凍機能付）等の管理機能を有する管理棟を新たに整備します。

2) 安全に学べて楽しい観覧環境

まなぶ

たのしむ

来園者が快適に観覧できるよう立地環境を十分活用し、ストレスのない観覧環境を整備します。
また、来園者・動物双方にとって安全性の高い施設整備を進めます。

① ストレスなく楽しく移動するために

観覧通路は、各ゾーン間を結ぶ「主動線」とゾーン内をめぐる「副動線」による構成を基本とし、一筆書きで全てのゾーンを巡ることができるような推奨ルートの設定に取り組みます。

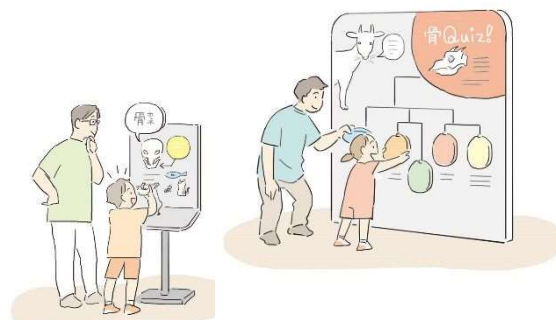
園内全体が、南側が低く北側が高い傾斜地であることを踏まえ、ユニバーサルデザインや楽しく安全に歩行できること等を考慮し、できるだけ自然になじみやすい動線とします。

また、ミスト設備や舗装材の工夫による異常高温対策等、猛暑や雨天時利用も想定したベンチや休憩スペースを適切に配置するとともに、歩きながら子どもたちが楽しく学べる仕掛け（動物にまつわるクイズ等）、ゾーンごとの特性の演出等、楽しく快適な歩行環境を提供します。

更には、高低差のある王子公園・動物園の現状を踏まえ、新たなモビリティ技術の進展も踏まえつつ、人にやさしい移動手段の確保に向けて、継続的に検討を進めます。



【直線を回避した自然になじみやすい園路のイメージ】



【子どもたちが歩きながら楽しく学べる仕掛けのイメージ】

② 管理動線との分離

管理車両の通行が想定される管理動線やバックヤードは、観覧通路と極力交わることがないよう、王子動物園の外周部から各ゾーンにアプローチする構成を基本とします。

③ ユニバーサルデザインに配慮したトイレ等の配置

高齢者や身体障害者、乳幼児を含む親子連れが利用しやすい多機能型のブースを兼ね備えた「ユニバーサルトイレ」を観覧ルートの適切な位置に整備します。

④ 人や動物の安全性を確保した施設整備

飼育動物の脱出、豪雨や台風等の気象災害、動物由来感染症等により来園者の安全性が損なわれないよう、また気象災害や飼育管理上に伴う事故、鳥インフルエンザ等の感染症による飼育動物への被害が発生しない施設整備を行います。

(2) 来園者の利便性を高める施設整備

1) 新たなゲートの整備 たのしむ

来園者の期待感を高めるデザインとするとともに、効果的な情報発信も担う空間とします。また、王子公園全体が灘文化軸の新たな拠点として機能するよう、王子動物園に隣接する、芝生広場・便利施設等を備えた「緑の広場」や桜並木の「シンボルプロムナード」との一体感あるものに整備します。

① ゲートやアプローチ道路における期待感の演出

六甲の自然や動物たちが棲む世界に誘う新たなゲートを創出します。

また、メインゲート付近に、動物園内外から利用できる飲食物販施設を配置するとともに、駐車場からゲートに至るシンボルプロムナードや、阪急王子公園駅やJR 灘駅から王子動物園に至るアプローチ道路と一体的に、動物と出会う楽しさを感じられ、来園者の期待感を高める演出を行います。



【来園者の期待感を高めるアプローチ道路等での演出のイメージ】

② スムーズなゲート運営

デジタル技術の活用により、入園チケットの事前購入等、王子動物園への円滑な入場を促すとともに感染症予防も考慮した新たな入園システムを構築・導入します。また、利便性向上を図るため、コインロッカー、ベビーカーや車椅子貸出、救護室、スタッフ詰所等を整備します。

ゲート付近には、来園者への案内や利用マナー、動物の解説方法等について、デジタルサイネージや二次元バーコード等も活用して多言語で情報発信できる仕組みを導入し、海外からお越しいただいた来場者も含めて、スムーズに安心して王子動物園を楽しむことができるよう整備します。



【スムーズに入入りができるゲートのイメージ】

③ 駐車場にアクセスしやすい出口機能の付加

来園者の利便性向上を図るため、駐車場にアクセスしやすくなるように、北側にも出口（再入場を可能とする機能も考慮）を整備します。

2) 動物科学資料館のリニューアル

まなぶ

ふかめる

たのしむ

はぐくむ

動物科学資料館は、剥製や骨格標本をはじめとする数多くの収蔵物やホール、収蔵図書等を備える重要な施設であるため、王子動物園における教育や学びの拠点としてさらなる発展を目指したリニューアルを行います。

① 展示コンテンツのリニューアル

社会情勢の変化や技術革新に対応して、仮想現実「VR」や拡張現実「AR」等最新のデジタル技術の活用等により、動物を取り巻く生態系や地球環境等の仕組みを気軽に映像等で体感できる展示内容に更新します。

貴重な資料である剥製や骨格標本を保存するスペースも重要であるため、展示機能を備えた収蔵庫や、腐敗せず触れることができる新技術等を導入する等、収蔵物の効率的活用を図るとともに、他の博物館等と連携しながら標本の管理を行います。また、標本を活かした体験プログラムや大学と連携した研究等を展開し、学びを深める空間を創出します。



【既存の収蔵物や最新のデジタル技術等を活用した展示コンテンツのリニューアルイメージ】

② 休憩機能とあわせた図書の閲覧機能の向上

気軽に休憩しながら、図書の閲覧やイベント等ができる場を整えることにより、これまで以上に多くの方に動物や生物多様性等に関する情報を入手できる場を設けます。



【気軽に休憩しながら、図書の閲覧やイベント等ができる場のイメージ】

③ 動物保全活動等に寄与するワーキングスペースの確保

動物ボランティアや自然保護に資する団体、様々な芸術家等が行う活動発表の場となり、また様々な立場の方が地域の生物や自然、環境等の情報交流により、活動を広げていくことができるワーキングスペース等の空間を確保します。



【情報交流や活動を広げるワーキングスペースのイメージ】

3) レクリエーション機能の再配置 たのしむ

動物福祉への対応を前提とした王子動物園のゾーニング等を踏まえ、安全で安心な遊び場や休憩広場等からなるレクリエーション機能の再配置を行います。

① さまざまな広場機能の再配置

王子動物園のゾーニングや想定される利用形態等を踏まえ、様々な広場機能を再配置します。

「エントランス広場」：団体利用に際し集合離散・集合写真撮影、イベント等の空間

「憩いの広場」：ピクニックシートを広げ思い思いにくつろぐ等、癒しを楽しむ空間

「学びの広場」：動物科学資料館付近に位置し、動物の命のぬくもりを体験できる空間

「遊びの広場」：動物や自然を身近に感じながら遊べるレクリエーション機能を有した空間

「賑わい広場」：低年齢層の子どもも安心して遊べるレクリエーション機能を有した空間

② 動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心な遊び場の整備

王子動物園の遊園地は、開園当初から動物園と一体に整備され、現在も多くの人々に親しまれています。しかしながら、施設の老朽化への対応が必要であるとともに、動物園としての役割等を踏まえた新たなレクリエーション機能へと転換する必要性が高まっています。

王子動物園のランドマークとして親しまれてきた既存の「観覧車」については、老朽化への対応を図りつつ、当面の間存続させるとともに、様々な年齢層の子どもたちが楽しめ、かつ動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心なレクリエーション機能を「遊びの広場」や「賑わい広場」に再配置します。



【動物を身近に感じることができる遊び場のイメージ】



【自然をより体感できるような遊び場のイメージ】



【低年齢層が安心して体を動せる遊び場のイメージ】

4 王子動物園が目指すべき方向性と具体的な取り組みの方針

(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園

まもる

コレクションプランに基づき、希少な種の繁殖に取り組むとともに、大学等の研究機関、自然保護団体等とも連携し、野生動物の保護繁殖と生息環境の保全に貢献する取り組みを推進します。

1) 動物の命をつなぐ

① 質の高い獣医療の提供

多様な動物種に高水準の獣医療を提供するとともに、病態解明や診断、治療に関する臨床研究の積極的な取り組みにより、種の保存や動物福祉の向上に貢献します。



【獣医療設備の充実の例】

<これまでの取り組み>

獣医療設備を随時更新しながら、各動物種に対し適切な検査・治療を実施しています。また、世界的に治療例の少ない動物種については、各種データ（採血部位、採血方法、検査記録、麻酔記録）を蓄積・活用しながら、より精度の高い獣医療の提供を目指しています。

② 域内保全

近年、里山の手入れ不足や外来種の侵入、開発等により、在来種の生息数が減少する等、生物多様性が失われつつあり、「KOBE 里山 SDGs 戦略」により神戸市域の生物多様性保全の取り組みが進められています。王子動物園においては、神戸市域の傷病鳥獣を治療し生息地に復帰させる取り組みを行っていますが、「KOBE 里山 SDGs 戦略」とも連携しながら、希少動物の保全を目指した飼育展示を行うことにより、里山の豊かな自然を守り、人間社会と動物との共生に関する理解を深める取り組みを進めていきます。

また、関係機関や大学等の研究機関、自然保護団体等とも連携しながら、希少動物の生息調査や保全活動に取り組むとともに、国内外の野生動物の生息地で行われている保全活動への協力、フェアトレード等に取り組み、域内保全に貢献していきます。

メモ

※フェアトレードの事例【ツシマヤマネコ米】

絶滅危惧種のツシマヤマネコのエサとなる生物（カエルやネズミ、鳥など）が生息する田んぼを守る活動に貢献できる商品。この商品を購入することで、購入費用の一部を活動費に充当しています。

③ 域外保全

生物多様性保全に貢献しながら飼育を維持できるよう、JAZA が取り組む繁殖計画に協力を行い、国内外の動物園・水族館とも連携しながら、王子動物園のコレクションプランに基づいた繁殖計画を推進していきます。また、これまで培ってきた飼育繁殖技術を活かし、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動物種の繁殖の促進を図る事業等と連携した保全活動に取り組むとともに、認定希少種保全動植物園制度の認定を目指します。

＜これまでの取り組み＞

王子動物園では将来的な野生個体群の絶滅を防ぐため、遺伝的な多様性を維持しながら、飼育している動物の繁殖に取り組んでおり、中国と協力し取り組んだキンシコウの「日中共同飼育繁殖研究」では、中国国外において世界で初めて繁殖に成功し、その子どもを中国へ里帰りさせる等、多くの希少動物の繁殖に成功しています。

- ・アムールヒョウ
- ・アジアゾウ
- ・ボルネオオランウータン
- ・シロテテナガザル
- ・キリン
- ・フラミンゴ
- 等

2) 動物福祉の向上

① 環境エンリッチメントの充実

環境エンリッチメントに取り組む種を増やすとともに、屠体^{とたい}給餌^{きゅうじ}（獣害問題や駆除されたシカ等の命を無駄にしない取り組み）等、動物福祉に資する様々な取り組みに対応できる環境を整備していきます。



【環境エンリッチメントの例】

＜これまでの取り組み＞

動物たちが豊かで充実した日々を過ごせるよう、野生に近い採餌環境等の再現により、野生本来の行動を増やすことができるよう取り組んでいます。

- ・アジアゾウ
- ・キリン
- ・ジャイアントパンダ
- ・ボルネオオランウータン
- ・ツキノワグマ
- 等

② ハズバンドリートレーニングの推進

動物にストレスを与えることなく健康管理や治療を円滑に行えるようにするため、安全面を考慮しながらハズバンドリートレーニングが可能な種を増やしていきます。



【ハズバンドリートレーニングの例】

＜これまでの取り組み＞

様々な動物を健康的に飼育していくため、動物の体に負担なく各種検査（血液採取、レントゲン撮影等）ができる体勢をとってもらうトレーニングを行いながら、体調の把握や治療、動物とのコミュニケーションを行っています。

- ・アジアゾウ
- ・ジャイアントパンダ
- ・カリフォルニアアシカ
- ・キリン
- ・ボルネオオランウータン
- ・ツキノワグマ
- 等

(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進 まなぶ

動物や展示サイン、教育プログラムを通じ、「命の大切さ」や「生物多様性保全に対する理解」が深まる教育を推進していきます。

① 展示動物の生息環境や特性、命の尊さなどを伝える展示機能の充実

獣舎の整備にあわせて、獣舎構造物の壁面、観覧通路等を有効活用して、各ゾーンの雰囲気演出する壁画や動物の大きさを体感できる原寸大の動物オブジェ等、来園者が楽しみながら学べる仕掛けづくりに取り組みます。この他、展示動物の名称・分類・分布や特性、動物を取り巻く現状等について分かり易く学べる展示を導入します。また、亡くなった動物に感謝や命の大切さ伝えることができるモニュメントを整備するとともに、亡くなった動物を剥製等の標本として活用できるようにしていきます。

<これまでの取り組み>

展示動物の名称・分類・分布・特長等の解説看板を設置し、動物科学資料館では常設展や特設展により主に動物の生態に関する学びの情報発信に努めています。

- ・ 獣舎前の解説看板
- ・ 動物科学資料館での常設展や特設展 等

② 教育プログラムの充実

動物の命の大切さや環境問題について楽しく学べるよう、遠足や家族でも学べるセルフガイド式のプログラムや専用アプリの開発の他、飼育員や獣医師等によるガイドの機会を充実します。

また、自然保護団体等と連携した園外での自然観察会や参加型の調査活動の他、環境負荷低減を促進する再生可能エネルギーの活用や商品の導入・廃棄物削減等の活動を通じた環境教育等、新たな教育プログラムにも取り組み、来園者が動物や自然環境への興味・関心を持ち、より理解が深まる学習機会を提供していきます。



【教育プログラムの例】

<これまでの取り組み>

飼育動物のガイドや餌やり体験、飼育体験等を通じ、動物の魅力や生態、環境保全問題等に関する解説を行っています。

- ・ 餌やりタイム
- ・ 獣医、飼育員等によるツアーガイド
- ・ ボランティアによる動物ポイントガイド
- ・ モルモット等のふれあい体験 等

③ 学校教育との連携

これまでの活動を継続していく他、学校のニーズを把握し、学校教育に向けた動物に関する講演、出張講座の実施、デジタルを活用した教育素材の提供等を行っています。



【教育事業との連携】

<これまでの取り組み>

教育支援事業を年間約 100 件以上開催（令和 3 年度実績）してきた他、小学生向けサマースクール、成人向けの「大人のための動物園講座」等を開催しています。

(3) 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進

ふかめる

専門性の高い大学等研究機関と連携した調査・研究の場とし、動物の生態の理解を深め、将来にわたり動物の飼育・繁殖・福祉の発展に貢献します。王子動物園自体が研究フィールドとなるような環境整備をはじめ、人材育成や研究機関等との連携をより推進し、研究分野の向上を図ります。

1) 次の時代につなげる（研究分野の拡大）

王子動物園自体を研究フィールドとするため、調査研究に適した獣舎整備をはじめ、飼育員や大学等の研究機関・自然保護団体等の交流の場、動物科学資料館を研究成果の発表・閲覧の場とする等、調査研究を推進する体制の構築を図ります。

また、種の保存の推進の観点から人工繁殖技術や生殖細胞凍結保存技術等の向上を目指した共同研究等に取り組むとともに、動物福祉の向上の観点から高度獣医療の整備や、動物行動学、動物心理学等の分野の研究者と連携して研究に取り組みます。

これらの研究から得られた知見や成果を幅広く共有することにより、飼育環境の改善や教育事業へフィードバックし、希少動物の保全や動物福祉の向上に貢献します。



【研究を行いやすい環境整備のイメージ】

<これまでの取り組み>

大学等の研究機関と、動物の繁殖や、生態の解明、健康管理等に関する主な共同研究

神戸大学	学術協定に基づき、オランウータン、ニシゴリラ、アムールトラ、ホッキョクグマ、コアラ、ユキヒョウ、ジャイアントパンダ等の繁殖研究
大阪公立大学	連携協定に基づき、ジャイアントパンダ、アカカンガルー等の高度獣医療による疾病治療
京都大学	アジアゾウのホルモン分析・年齢推定、ユキヒョウのホルモン分析・行動調査・血縁解析、霊長類の生態に関する研究、様々な動物の性別判定・遺伝子解析等
岐阜大学	キリン、ホッキョクグマ、シロサイ、コアラ、アジアゾウ、アムールヒョウ等の繁殖研究
その他	コアラの感染症・遺伝子分析、鳥類のマラリア等の疾病の研究、ネコ科動物のマタビ反応の研究 等多数

2) 次の世代を育てる（人材育成への貢献）

① 職員の専門性向上

種の保存や動物の健康管理、動物福祉の向上に向けて職員の専門性を更に高めていくため、日頃の業務で培った飼育技術や獣医療技術等を職員相互に共有し、スキルの継承を円滑に行える職場環境や体制づくりとともに、専門性を高めることを目的とした各種研修等の積極的な受講等、人材育成システムの構築を進めます。

② 次世代の育成

教育機関と連携し、学生たちに飼育や研究を通して得られた動物の生態等の知見を広く発信する他、学校教育で取り組む生物多様性保全に関わる研究発表等に協力支援する等、次世代の生物多様性保全を担う人材育成に寄与します。

(4) 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出 たのしみ

広い園内で、来園者が安全に安心して動物園を楽しめる環境を創出するとともに、王子公園全体の計画を踏まえながら、六甲の緑豊かな自然を背景とした景観資源として適切に管理活用し、緑豊かな景観づくりに取り組みます。

① 園内樹木の適切な管理と魅力的な景観形成

既存の樹木等を見据えつつ、緑陰の確保やゾーンごとの演出に配慮した樹種の選定、園内の桜の高齢化への対応等、必要に応じて更新するとともに、六甲山の緑と調和した美しさを感じられるような景観づくりに取り組みます。

さらに、良好な眺望を活かした撮影スポットを設ける等、王子動物園・王子公園に来園した思い出づくりや魅力発信の場づくりを行います。



【緑豊かな景観】



【夜桜通り抜けの様子】

② のんびり動物園を楽しむ

動物園をゆっくり楽しんでもらうために、楽しくお弁当を広げたり体を休めたりすることができるゆとりある休憩広場や、イベントやキッチンカー等のサービス提供に応じた設備の整備等、既存施設も適切に活用しながら、来園者にとって居心地のよい広場空間を提供します。

また、王子動物園や緑の広場等への来場者が一緒に楽しむことができる飲食・物販施設等、魅力的な賑わい機能をゲート近辺に一体的に整備します。王子動物園内においても、食事を楽しむ、軽食等で休憩し、お土産の探索等で楽しめるように、飲食・物販施設や自動販売機を配置するとともに、繁忙日にはキッチンカー等を導入し、快適性や利便性を高めます。

③ イベント等情報が入手しやすい環境づくり

施設内において来園者の視線を集めやすい場所にわかりやすい表現を用いたインフォメーションや専用アプリを導入することで、誰もが手軽にイベント情報やマナー等の関連情報が得られるよう、積極的に発信していきます。

④ 灘文化軸にふさわしいデザイン

獣舎施設や案内サイン等は、動物種・ゾーンごとの生息環境の創出を考慮しつつ、動物園全体で統一性を図るとともに、動物をモチーフとしたデザイン等、園全体の魅力向上に寄与できるデザインとします。

また、アート作家の作品を園内に展示する企画を近隣の美術館等と連携して実施する等、灘文化軸の拠点にふさわしい空間づくりを目指します。

(5) 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園

はぐむ

市民や関連団体、企業等と一体となって、王子動物園を守り育てる仕組みを強化します。また、地域と連携した取り組みを通し、魅力ある地域づくりや地域における人材育成にも繋がります。

① 王子動物園とともに育む基盤づくり

王子動物園とともに育む方々を増やしていくため、動物園のイベント情報にアクセスしやすく情報が得られやすいアプリの開発等の構築や窓口機能の充実を図り、王子動物園を訪れるきっかけづくりを増やします。

また、各種企業等とコラボレーションし、思わず手に入れたくなる王子動物園でしか買えないオリジナルグッズや野生動物の生息環境への負荷の低減を図るフェアトレード商品の提供をはじめ、環境保全に資するイベント企画を展開する等、新たなイノベーションを創出し、HP や SNS での情報発信（X（旧 Twitter）や YouTube チャンネル）、各種マスメディア等を活用して幅広く PR することで、新規来園者やリピーターを増やしていきます。

② 王子動物園とともに育む仕組みの強化

市民や関連団体・企業等による動物サポーター制度のサービスの充実による一層の来園者拡大、クラウドファンディング等多様な寄付・支援制度の導入により、動物の飼料費、獣舎の改修費等を募る制度を充実させ、ファンと共に王子動物園を守り育てる仕組みづくりを進めます。

また、市民や関連団体、地域の学校、企業等がボランティアや地域活動、CSR 活動の一環として、王子動物園の運営に参画し、イベントやガイド、清掃をはじめ、植樹や展示サイン制作等、多様な活動に広く関わっていただける体制づくりを推進します。また、そのような活動を行う拠点としての動物科学資料館の活用を進めます。

<これまでの取り組み>

動物サポーター制度により、企業・団体・個人の方から寄付をいただき、動物たちの餌代や獣舎の整備等の運営費用に充当しています。また、動物ガイドやイベント補助等の活動を行うボランティア制度も運用しています。

③ 地域の活性化

灘文化軸を構成する様々な美術館や地域の学校、商店街等との協働により、回遊性やにぎわいを高め、まち全体の活性化に貢献する取り組みを推進します。

また、地域団体や地元の商店街、企業と連携して動物園の資源を活かしたイベントの実施やグッズ、飲食店のメニュー開発等に取り組むとともに、他の動物園・水族館とも連携しながら、地域全体としての魅力を発掘、展開できる情報発信を進めていきます。

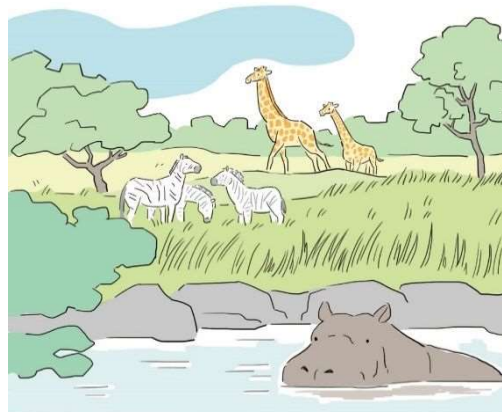
5 工程計画

王子動物園のリニューアル事業は、通常営業を行いながらのリニューアルとなるため、来園者の安全を確保しながら、動物への影響を最小限にできるよう、空き獣舎やスペースの有効活用等、様々な手法をとりながら進めていきます。

早期整備を目指す第1フェーズを確実に進めていくとともに、第2フェーズ以降については、飼育動物の状況や負担の少ない動物移動を見据えながら整備手順を検討します。

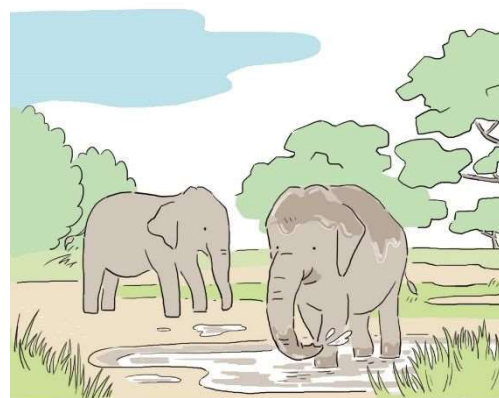
① 第1フェーズ

サバンナゾーンでは、アフリカのサバンナに生息するキリンやシマウマ、カバ等の複数の動物種を見通せる「通景」の演出や生息環境を再現し、生態系が多くの動植物のバランスの中で成り立っていることを体感できるゾーンとして整備し、動物との出会いを楽しめ、生態や暮らしの様子を観察できる展示方法を目指します。



【サバンナゾーンのイメージ】

アジアゾーンでは、アジアゾウの生息環境を再現する等、動物本来の能力や行動を引き出す工夫を行うとともに、ガイドラインに基づく飼育基準を満たしたゆとりのある空間を創出することを目指します。

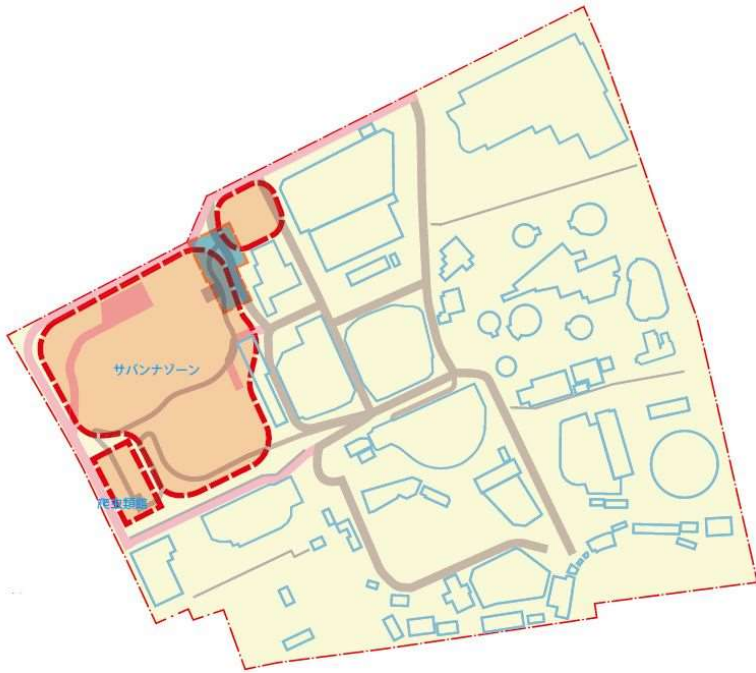


【アジアゾーン（アジアゾウ）のイメージ】

爬虫類館では、熱帯のジャングル、サバンナ等に生息する爬虫類の生息環境を再現し、生態系が多くの動植物のバランスの中で成り立っていることを体感できる施設として新たに整備していきます。

その他、動物管理の中核となる管理事務所や動物病院の整備、新たな王子動物園の顔となるメインゲートを整備していきます。

i) サバンナゾーン・爬虫類館・広場の整備



凡 例

- : 撤去施設
- : 既存施設
- 賑わい・休憩広場
- 観覧園路 (一部管理兼用)
- 管理専用園路

ii) メインゲート・管理事務所・動物病院の整備



iii) アジアゾーン (一部) の整備



② 第2フェーズ以降の整備手順

オーストラリアゾーン・広場の整備



世界のネコ科ゾーンの整備



神戸の森～日本の自然ゾーン・動物科学資料館



凡例

- 撤去施設
- 既存施設
- 賑わい・休憩広場
- 観覧園路 (一部管理兼用)
- 管理専用園路

広場・南米ゾーン・霊長類ゾーンの整備



アジアゾーン (残りの獣舎) の整備



6 実現に向けて

本計画に基づくリニューアルについては、2045（令和27）年度を最終目標とし、総事業費は、約140億円を想定しています。

リニューアルにあたっては、開園しながら工事を進める予定であるため、工事に伴う騒音や照明、動物移動が飼育動物に極力影響が及ばない整備手順を検討するとともに、獣舎整備に伴う飼育動物の退避スペース（仮設獣舎）についても、動物福祉の観点も踏まえながら、空き獣舎や空きスペースの有効活用等で確保していきます。

なお、本計画は、飼育動物の状況や社会情勢の変化等に対応し、必要に応じて計画を見直しながら進めていきます。

年度 ゾーン	2024 (令和6年)	2025 (令和7年)	2026 (令和8年)	2027 (令和9年)	2028 (令和10年)	2029 (令和11年)	2030 (令和12年)	2031 (令和13年)	～	目標年度 2045
動物園	第1フェーズ 工事							第2フェーズ以降 順次、整備		
		i) サバンナゾーン ・爬虫類館		ii) メインゲート 管理事務所・動物病院		iii) アジアゾーン (一部)				
概算事業費	約70億円							約70億円		

計画概成